

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,530	t-CO ₂
（温室効果ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		1,530

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度		令和 7 年度	令和 8 年度		
温室効果ガス総排出量	1,530	t-CO ₂	1,377	t-CO ₂	1,530	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			10.0	%	▲ 0.0	%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）						%		%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度		令和 7 年度	令和 8 年度		
原単位当たりの排出量										
削減率（対基準年度）				%		%		%		%
原単位当たりのみなし排出量										
削減率（対基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和6年度は病院部門の名古屋市立大学附属病院への移行に向けた準備期間であり、建物内で多くの工事が実施され、組織改編に向けた準備もされてきたことから、多くの廃棄物が発生した。そのため温室効果ガスの削減に向けてはマイナスの削減率となった。今後は引き続き継続的な環境施策に取り組み、地球温暖化対策の推進を行っていく。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。
 備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> ・冷房28℃、暖房20℃を徹底する。 ・個別空調機器更新時には省エネ型を設置する。 ・クールビズ、ウォームビズの推奨。 		クールビズ・ウォームビズの推奨実行。
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房区画の限定（不使用室の空調停止）。 ・ブラインドの活用、窓ガラスへの断熱フィルムの貼り付けによる日射負荷の減少。 		使用していない部屋の空調停止を実施。 20時以降の冷暖房設備の停止（入所施設、病棟除く）を実施。
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	<ul style="list-style-type: none"> ・使用していない部屋や昼休み、時間外の消灯を徹底する。 ・LED器具、Hfインバータ蛍光灯器具等への更新。 		照明は全館LED化済み。 使用していない部屋の消灯徹底。
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	<ul style="list-style-type: none"> ・離席時はスリープ機能を活用。 ・退社時や外出時は可能な限りパソコンや事務用機器の主電源を切り、待機電力を削減。 		帰社時に事務機器の主電源の停止を実施。また4階は夜間帯に照明を半分消灯する。
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンや事務用機器の購入時は、待機時の消費電力等が少ない省エネルギー機器を選定。 ・コピー機の退社時の電源オフを徹底。 		帰社時に事務機器の主電源の停止を実施。
省エネルギー・省資源の行動の実践・その他	<ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機の不要な照明を消灯。 ・夜間時のエレベーター制御。 		夜間帯のエレベーター制御を実施。
自動車利用に関する取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・業務における公共交通機関や自転車の利用促進。 ・急発進、急加速を控え、アイドリングストップの確実な励行等エコドライブを推進。 ・タイヤの空気圧等、こまめな点検整備。 		エコドライブの推進。

指針第2号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標 (2030年度)	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度			
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	17.4	%		%		%		%

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
k1	t-CO ₂

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

日

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--